

産業建設常任委員会記録

令和2年5月21日

【開催日】 令和2年5月21日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前10時40分～午前11時55分

【出席委員】

委員長	中村博行	副委員長	藤岡修美
委員	岡山明	委員	高松秀樹
委員	恒松恵子	委員	森山喜久
委員	宮本政志		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰	副議長	矢田松夫
----	-----	-----	------

【執行部出席者】

副市長	古川博三	経済部長	河口修司
公営競技事務所 長	桶谷一博	公営競技事務所 副所長	安重賢治
公営競技事務所 所長補佐	兼本浩二	公営競技事務所 主任主事	長村知明
公営競技事務所 主任主事	村上良平		

【事務局出席者】

局長	尾山邦彦	書記	光永直樹
----	------	----	------

【審査事項】

- 1 議案第63号 令和2年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正
予算（第1回）について

午前10時40分 開会

中村博行委員長 おはようございます。ただいまより産業建設常任委員会を開催いたします。早速、審査に入りますが令和2年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第1回）について執行部の説明を求めます。

桶谷公営競技事務所長 おはようございます。4月1日付けで人事異動がありましたので職員の紹介をさせていただきたいと思っております。

安重公営競技事務所副所長 この度の異動で副所長を拝命いたしました安重でございます。本庁と全く様子の違う職場ではございますけども、頭を切り替えて頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

桶谷公営競技事務所長 それでは、議案第63号令和2年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第1回）について御説明いたします。なお、お手元に、議案とは別に資料を用意しておりますので、こちらも併せて御説明させていただきたいと存じます。今回の補正は令和元年度の決算見込みにつきまして、歳入が歳出に不足する見込みでございますので、地方自治法施行令第166条の2の規定に基づきまして、令和2年度の歳入を繰り上げて、これに充用しようとするものです。予算書1ページをお願いします。第1条でございます。歳入歳出予算総額にそれぞれ12億3,000万円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ165億2,802万7,000円とするものです。続きまして、予算書5ページ、6ページをお願いします。上段の歳入では、3款2項1目雑入1節雑入におきまして、歳入欠陥補填収入として、12億3,000万円を計上しています。また、下段、歳出では、4款1項1目前年度繰上充用金、22節補償、補填及び賠償金におきまして、前年度繰上充用金

として、令和元年度の歳入歳出不足額に充てるため、12億3,000万円を計上しています。なお、予算の調製の様式は、地方自治法施行規則に基づいて作成しています。続きまして、資料の御説明をさせていただきます。詳しい説明につきましては、決算委員会の中で改めて御説明させていただきます。まず資料1をお願いします。こちらの資料は、令和元年度の各場の売上状況でございます。各場、数値が3段書きとなっておりますが、中段の数値は売上げの構成比になり、下段の数値が対前年度比になります。まず、表、中ほど下の黄色で色塗りしたその下の合計欄ですが、5場全体の売上合計になります。平成30年度に続き、700億円の大台を超え、738億9,166万6,800円となり、対前年度比104.9%となっております。このような状況の中、山陽場ですが、黄色で色塗りしている欄になります。まず、左端の開催日ですが、上段が令和元年度の開催日数で65日となっております。下段が平成30年度の開催日数で55日ですので、10日の増加となっております。この65日の内訳ですが、まず、昼間のレースですが、昨年9月に開催しました特別GIプレミアムカップが台風で1日中止となりましたので、予定の48日が1日減の47日となりました。一方、令和元年度から本格的に開催を始めましたミッドナイトレースですが、18日の開催となりました。平成30年度の試行開催が7日でしたので、11日の増加となりました。続きまして総車券売上額ですが、115億2,493万1,400円、対前年度比123.1%と大きく伸び、2年連続で前年度の売上額を上回りました。総売上額が100億円を超えるのは、平成21年度以来10年ぶりとなります。あわせて、右隣、1日の平均売上額も伸びているところです。内訳では、本場開催はやや落ち込んでいるものの、電話投票における民間ポータルや重勝式が大きく伸びています。とりわけ、重勝式は対前年度比207.4%と続伸し、成長期に入った印象を持っています。続きまして、表の中央やや右にあります本場入場者数ですが、こちらの数値は山陽場に来られたお客さんの人数になります。58,580人、1日平均では1,246人となっております。なお、1日平均はミッドナイトレースの開催日数を除いた数値となっております。

他場におきましても減少傾向にあり、業界上げての対策が求められるところではあります。今後も、本場での臨場感あふれるレースの醍醐味や魅力を発信するためにも、委託先業者と連携して魅力あるレースやイベント等を企画してまいりたいと考えています。続きまして、右隣、電話投票利用者数ですが、売上額同様に民間ポータルと重勝式が大きく伸びています。資料1につきましては以上でございます。続きまして資料2をお願いします。こちらの資料は、ミッドナイトレースのみを抜き出して作成した資料になります。先ほどの資料1の内数となります。18日の開催で総車券売上額は13億8,688万5,800円で、1日平均でおよそ7,700万円となりました。ミッドナイトレースは、お客さんを入れずにネット投票のみを行うレースですが、この資料の中で、本場売上額と専用場外の欄に数字が計上されています。これは、ミッドナイトレースの前売発売を行っているものです。本場では、早朝外向発売所におきまして、7時20分から15時、そして、開門後は、場内の投票所で昼間の場外発売最終レースの発売締切りまで発売しています。これは、既存の資源を最大限活用しながら、ミッドナイトレースの売上向上を目指すもので、昼間のレース売上との相乗効果も期待するものです。続きまして、資料3をお願いします。こちらの資料は、各種の決算見込数値をまとめたものになります。資料の左側に付しています番号に沿って御説明いたします。まず1は令和元年度歳入歳出決算見込みになります。歳入が119億8,912万8,000円、歳出が131億6,530万5,000円となり、形式収支であります歳入歳出差引不足額が11億7,617万7,000円となる見込みです。一方で、その下の※印になりますが、先の、3月議会令和元年度の補正予算におきまして、スタンド改修の繰越明許の議決を頂いています。その財源であります基金繰入金4,664万1,000円につきましては、既収入特定財源として扱うこととなりますので、先ほどの形式収支に、これらの金額も考慮した額で繰上充用することとなります。その結果、12億2,281万8,000円が、令和元年度末での累積赤字見込額となります。なお、この度の補正予算におきましては、100万の単位を切り上げた12億3,0

00万円を繰上充用金として計上しています。続きまして、2は令和元年度の単年度収支になります。歳入は1と同じく119億8,912万8,000円となります。一方、歳出にはこれまでの累積赤字額つまり前年度繰上充用金が含まれていますので、この金額12億5,355万9,000円を除いた、119億1,174万6,000円が歳出額になります。その結果、3,074万1,000円の黒字となる見込みです。続きまして、3は累積の赤字額になります。1と同じ数値となりますが、こちらは、前年度からどれだけ累積赤字額が減っているのかに着目した計算になります。平成30年度末の累積赤字額が12億5,355万9,000円でしたので、この数値から、先ほどの令和元年度の単年度黒字額3,074万1,000円を差し引いた12億2,281万8,000円が令和元年度末の累積赤字額となります。続きまして、4はリース料関係になります。平成30年度末のリース料の残額が6億1,370万8,000円で、令和元年度に7,671万3,000円返済しましたので、令和元年度末のリース料の残額は5億3,699万5,000円となる見込みです。なお、リース料の完済時期は、令和8年度となっています。続きまして、5は累積赤字額とリース料残額の2つの債務が前年度からどれだけ減っているのかに着目した数値になります。なお、交付金猶予分は平成29年度に完済しましたので、全体の債務としては、累積赤字とリース料の二つになります。数値は、上記の3と4を合算したものとなります。右端に付していますアルファベットAの1億745万4,000円が令和元年度の2つの債務解消額になり、その下の17億5,981万3,000円が令和元年度末の2つの債務残額となります。続きまして、6と7は基金の保有状況になります。6が施設改善基金、7が財政調整基金になります。基金の積立てと取崩しは、基本的に予算に基づき行っています。両基金の増減額となりますBとCを合算した下から2行目の3,785万3,000円が、令和元年度に増額となった基金の総額となります。この金額に、さきのA1億745万4,000円を加えた1番下の金額1億4,530万7,000円が令和元年度の基金も含めた実質収支改善額になります。令和元年度につ

きましても、皆様の御理解を頂きながら、単年度収支におきまして黒字さらには、基金へも一定額を積み立てることができました。こうしたことも踏まえまして、昨年度より実質収支改善額という表現を用いさせていただきます。資料3につきましては、以上でございます。続きまして、資料4をお願いします。こちらの資料は、小型自動車競走事業特別会計をその性質により大きく4つにグループ分けをし、それぞれの収支がどうであるかを仕分けた表になります。資料の左側に付してあります番号に沿いまして御説明いたします。まず、1は小型自動車競走事業の根幹をなす開催に係る収支であり、この部分が包括的民間委託に関わる収支となります。歳入は、①の本場開催発売金70億8,348万6,000円、場外事務協力費2億9,747万8,000円などを合計した74億1,776万2,000円となります。歳出は、まず、②の義務的経費は、払戻金、JKA交付金で、茶色でマーカーした数値50億9,447万2,000円となります。続きまして、③の開催経費は、賞典費や赤色でマーカーしてあります市の収益保証4,849万8,000円などを合計した黄色でマーカーした数値19億994万8,000円となります。そして、⑤の包括的民間委託料は、4億1,334万2,000円となり、歳出も、これらを合計した74億1,776万2,000円となります。続きまして、2は開催以外に係る収支になります。⑦の項目の中に赤色でマーカーしてあります収益保証4,849万8,000円は、同じく赤色でマーカーしてあります⑧の項目の地域公益事業1,030万円と主に人件費であります固有経費3,389万2,000円に充当されます。なお、この表では明記されていませんが、充当された残りの残額が、430万6,000円でございます。これが包括的民間委託により解消できた累積債務の額となります。続きまして、3は重勝式に係る収支になります。歳入は、⑩重勝式発売金の31億1,728万6,000円になります。歳出は、⑪の義務的経費であります重勝式払戻金とJKA交付金、⑫の開催経費であります川口ほか開催場への負担金、全動協への拠出金、⑬の日本写真判定(株)への発売業務委託料、そして⑭の施設改善基金への積立ての合計30億1,469万6,000

円になります。この重勝式に係る収支は、1億259万円となり、これも累積債務の解消額に充てられます。最後、4はミッドナイトレースに係る収支になります。歳入は、⑩勝車投票券発売金13億9,195万2,000円など合計で、13億9,316万2,000円になります。歳出は、1の開催に係る収支と同じく、義務的経費や開催経費となり、これら経費に加えまして、2つの基金への積立金も計上しています。なお、⑨の開催経費のその他開催経費の中には、照明設備の委託料4,992万8,000円も含まれています。その結果、ミッドナイトレースに係る収支は、55万8,000円となり、これも累積債務の解消額に充てられます。これら4つのグループの収支を整理し、まとめたものが表の一番下になります。先ほど資料3で御説明した内容と同じものになりますので、説明は割愛させていただきます。以上で補正関係の説明を終了します。令和2年度につきましても、これまでのお客様、そしてこれからのお客様に御愛顧いただけるよう、職員一丸となり全力で取り組んでまいり所存でございます。御審議のほどよろしく申し上げます。

中村博行委員長 詳しい説明が終わりました。資料も前回指摘しましたようにA4の小さい文字から見やすいA3に戻していただきましてありがとうございます。それでは早速、質疑に入りたいと思うんですが、予算書のほうはほとんど1件だけの感じですので、これも含めて質疑をしていたらこうと思うんですが、主に資料のほうから行きたいと思えます。まず資料1から質疑を求めます。売上等ですね。全场、山陽それぞれ、詳しく出ております。

森山喜久委員 先般もちよつと質問したと思うんですけど、今回のコロナの関係で入場制限を含めて行われていると思うんですけど、車券の払戻しの猶予の関係が現在どうなっているのか、教えてもらっていいでしょうか。

桶谷公営競技事務所長 車券の払戻しにつきましては、現在中止をしているところですが、再開の時期につきましては、現在のところ未定です。当たり

車券の有効期間ですが、民法の161条によりまして現在、時効中断を
させていただいておりますので、再開しましたら、皆様方に改めて御案
内して、払戻しをする運びになります。

中村博行委員長 ファンの方にそういう心配を掛けないようお願いしたい。

宮本政志委員 資料1からちょっとお聞きしたいんですけど、開催日数の件で
すが、一番多いのが飯塚で、山陽は半分以下なんですけど、この差とい
うのは何か原因があるんですか。

桶谷公営競技事務所長 飯塚場と山陽場につきましては、競走の実施法人が同
じで西日本小型自動車競走会です。したがって、そういった枠組み
の中での日程調整ということがまず1点です。それと2点目としまして、
飯塚場が令和元年度に走路改修を予定されておりますので——済みませ
ん、それは関係ありませんでした。失礼しました。

長村公営競技事務所主任主事 補足させていただきます。基本的に業界全体で
集まって、各場に割り当てられる日数というのを毎年議論しています。
飯塚市でのミッドナイトオートレース開催が増えてきましたので、その
関係でちょっと今日立って飯塚市さんの開催日数が増えているんですけ
れども、昼間とナイターレースというのは業界での総数が416日と決
まっています、それをどういうふうに割り振るかという協議の下にこ
ういう形になっております。飯塚市さんのミッドの日数が増えていると
ころが要因かなと思います。

宮本政志委員 そうすると山陽場が非常に頑張っておられるなと思うのは、1
日平均売上がありますよね。これはほぼ1番の川口と変わらないんです
けど、これは逆にどういった原因ですか。

桶谷公営競技事務所長 これら1日当たりの平均の売上額につきましては、本

市の大きな特徴であります重勝式の売上額も含んでおりますので、結果的に数字的には大きな数字となっております。

宮本政志委員 だと思ったんです。電話投票利用者数の関係かなと思ったんですけど、そもそもこの表はオフィシャルと民間ポータルと重勝式、重賞は伊勢崎と山陽だけですけれど、これ、数字全部足したのが電話投票利用者数ということでもいいんでしょうか。川口でいったら二つ、山陽三つですよ、重勝式まで入ったら。山陽でいったら三つのこの数字、人数を足したのが全部の利用者数の合計ということでしょう。そういうことでもいいですよ。（「はい」と呼ぶ者あり）そしたら、これ今、オフィシャルと民間ポータルのほうは山陽のすぐ上の飯塚に比べたら半分以下なんですよね。オフィシャルのほうと民間ポータルは上の飯塚と比べたら、利用者数は半分以下ですよ。重勝式に関しては飯塚はないですけど、これ見てみると重勝式は。これだけなんで差が出るんですか、オフィシャルと民間ポータルは。かなり飯塚とは半分よりまだ少ないですよ。

長村公営競技事務所主任主事 ただいま御質問いただきました内容が、こちらの利用者数は、延べ利用者数が記載されております。ミッドナイトとかで飯塚市さんのほうが日数が多く、1日平均が出ていないので、申し訳ないですが、延べ利用者数ということで、開催日数が多い飯塚市さんが多いように見えているというのが現状かと認識しております。

宮本政志委員 ということは、例えば携帯の使い方に関して、ちょっと年配の方は得手不得手があって、そういう説明とか利用の利便性、そういったものに別に差があるわけじゃないよということですか。

中村博行委員長 単に日数がこれだけ違うということが大きな原因やね。

藤岡修美副委員長 先ほど本場入場者数を増やしたいという説明があったんで

すけども、コロナの対策がしばらく続きそうで、新しい生活様式になっても、3密は避けないといけないようなんですけど、スタンドの改修の計画もあるわけですけども、その辺、今後の課題みたいなものを考えておられますか。

桶谷公営競技事務所長 本場にお客さんに来ていただくためには、ある一定の基準と申しますか、ガイドラインを作成して、そのガイドラインに基づいて再開をする必要があると思っています。そのガイドラインの中では、非接触型の体温計を用いて、入場されるお客様の体温を測定することなどを現在検討しているところです。一方、お客様が主に集まりますのが、今までですと発売所がかなり限定されておりました。これは来場されるお客様の人数に応じまして、この窓口は開ける、この窓口は開けないというふうに調整しておりましたが、3密を避けるという観点からは、逆に開ける窓口を拡散させるといいますか、ある程度広範囲にわたって窓口を開けて、一つの窓口に集中することがないように考えています。加えてモニター画面の周りにもお客様が集中しますので、そういった上映するモニターの数であるとか、モニターの場所であるとか、そういったことにも配慮する必要があると思っています。

藤岡修美副委員長 スタンド改修自体の中身が変わるということはないですか。

桶谷公営競技事務所長 現在のところ、スタンド改修そのものが変わるということとはちょっと想定しておりません。しかしながら、この度の新型コロナウイルスに関しまして、総括といえますか、反省的なものをしっかり行いまして、それはスタンド改修に反映させていきたいと考えております。

中村博行委員長 スタンド改修の話が出たんですけども、これはコロナの影響で多分会議等々がなかなか開かれていないと思うんですが、その辺の進捗状況というのはどうなっていますか。

桶谷公営競技事務所長 スタンド改修の基本設計、実施設計につきましては、先の3月議会で繰越明許の議決を頂いておりますので、令和2年度に繰り越して、この事業を行っているところです。新型コロナウイルス対策の関係でなかなか思うように業者の方と細かい打ち合わせができていません。

中村博行委員長 計画ではそんなに具体的な数字で今年度示されてないので、徐々にはされると思うんですが。

岡山明委員 重勝式の売上げが、倍率で200%を超えているという状況で、すさまじい展開になっていると思うんですけど、その上の伊勢崎のほうで130%というと、去年も100ちょっとという状況で、伊勢崎のほうでオッズパーク、うちは当たるんです。そういう二つの販売系統でやっているんですけど、なぜ大きく差が開いたのか。やっぱり当たるんですのCM等を通して、売上げが倍になったと思うんですが、伊勢崎との民間の業者がいるんだけど、どういう状況でその中で差が開いたっていう、大きく開いたのか。要因は何がありますかね。

桶谷公営競技事務所長 伊勢崎場の細かい状況については、この場では発言を控えさせていただきたいと思います。本場の当たるんですにつきましては、定例的に委託業者と打合せ会議を開いております、お客様の動向であったり、どういった形で広告を打っていくとか、細かい打合せをしています。大体毎月1億円弱の広告費を投入してまして、その結果、主に30代、40代の男性をコア層として、会員数が大きく伸びてきているところです。大きく伸びたもう1点の理由としましては、これまでの発売は昼間のレースを中心に発売してきました。昼間のレースでもグレード別によって優先順位を決めておりましたが、令和元年度の下期からミッドを中心に売ろうということで、当たるんですの対象となるレースをミッドに移行したことも大きな理由とっております。そういったことも功を奏しまして、令和元年度の上期で約10億円の売上げ、下期

では約20億円の売上げ、合計で30億円の売上げとなりました。

岡山明委員 今の上期と下期で期間を見ると18日ですね、18日ミッドナイトのほうに移行し、ミッドナイトの分も、そういう重勝式に組み込まれたという形みたいな話をされたんですが、今後、30億円、前半後半で10億円、20億円という形になって、今年度も同じような状況というか、200%上がる可能性としては、今年はまだある程度頭打ちしたと。そういう感じで、今後状況としては余り上がらないだろうという解釈になりますか。

桶谷公営競技事務所長 4重勝単勝式が抱えている可能性、それは非常に高いものがあると思っております。一方でこの度の新型コロナウイルスの関係がありましたので、これから先、お客様の購買がどのように移行するかというのは不透明な部分もあります。しかし、基本的には4重勝単勝式につきましては、黎明期を脱して成長期に入っているの、そういった感想を持っております。

岡山明委員 ちょっと不謹慎な質問なんですけど、今回のコロナで自宅謹慎という状況になれば、状況的には前半の形で、重賞の売上げが上がる、売上げ自体もコロナに関して言うと、逆に、電話、パソコンとかそういう形を取ると、売上げ自体が上がると、そういう形になる可能性がなきにしもあらずという状況で考えられるんですけど、その辺はいかが捉えられていますかね。考えられていますかね。

中村博行委員長 意味が分かるかね。

桶谷公営競技事務所長 その辺りの細かい分析といいますか、分析するだけの材料的なものもありませんので、現時点では何とも言いようがありません。

岡山明委員 ちよつともう一つ、オフィシャルと民間ポータルがあるんですが、それぞれ、オフィシャルは公的機関なんですけど。あと民間。それぞれの委託といたらおかしいけど、それぞれ別枠だということで、これが売上げの経費に何か違いがあるかどうかという分なんですけど、オフィシャルに対して、経費が例えば一緒かと、民間ポータルの分と一緒かどうかそれだけちよつと確認したい。

中村博行委員長 前も説明をしてもらったと思うけれども、もう1回。

桶谷公営競技事務所長 確かに民間ポータルが伸びてきますと、収益全体の収益構造というものが大きく変わってきますので、そういった観点から影響があると見ております。

岡山明委員 経費の部分で、民間とオフィシャルと民間ポータルとの、経費に関しての違いがあるかと。料金的にそういう経費の部分で、民間ポータルのほうが売れば、それだけメリットがあると。それぞれの違いが金額的にどうかという部分なんです。金額的に。

中村博行委員長 要するに利益率のあれでしょ。利益率で前回説明を受けたと思うんだけど。

桶谷公営競技事務所長 以前、お話をさせていただいたかと思いますが、民間ポータルは、令和元年度でいきますと3社ほどありました。これら3社に支払う委託料ですが、売上の12%から13%の間をそれぞれ支払っている状況です。一方、オフィシャルのほうは、これは委託という概念ではなく、ある一定の金額を支払っていますので、こういったものを仮に委託料として換算し直した場合ですと、4%前後になるのではないかと見ております。そういった観点で申し上げますと、同じ売上げでも、民間ポータルのほうが伸びてきますと、全体の中での収益構造が変わってくるという実情があります。

岡山明委員 今のお話でいくと民間ポータルのほうが12から13%ぐらいの経費が掛かる。オフィシャルに関しては、JKAですか、あちらのほうにも何か出資のような形で四、五%取られるという状況で、そうすると、オフィシャルの売れ行きが上がれば、利益率としてはあるという状況。10%、極端な話7%、8%の利益率としては高いということですね、そうすると。分かりました。

中村博行委員長 資料2からお願いします。ミッドナイト。ミッドナイトについて4月は中止されましたよね。今後、中止についてはどのように考えていますか。

桶谷公営競技事務所長 今後の予定ですが、5月は元々の予定で昼間もミッドも、レースがありません。6月に入りますと、早速1日からミッドナイトレースが始まりますが、これらのレースにつきましては、予定どおり行うこととしております。

中村博行委員長 中止されたからね。再開が難しいのかなというふうに思っていましたけどね。飯塚のほうで、すぐに記念レースがあって開催されたので、選手がそういう交流について、関東の選手と交流するというところで、やっぱり心配されると思うんですけど、その辺の声は聞かれていますか。

桶谷公営競技事務所長 この度のコロナの問題を受けまして、レースに参加する選手のあっせんも変えております。それぞれ選手はそれぞれのレース場に所属をしているわけですが、所属をしているレース場ではなく、選手の居住地によりまして、大きく西と東に分けて、例えば、こちらのほうでいきますと、西に居住している選手は山陽場あるいは飯塚場のレースに参加するという手立てをとっております。一方、車立てですが、基本的に普通開催の場合は8車立てでレースを行いますが、場合によっては、7車立てということで、参加人数を減らしてのレースを行っている

ところでは。

中村博行委員長 ミッドはよろしいでしょうかね。（「はい」と呼ぶ者あり）
それでは、資料3のほうから。本会議場でも、これに関して質問があったと思うんですけども、あれば。

森山喜久委員 この度繰上充用額は12億3,000万円で繰上充用額が12億円になったのが、今3年連続なのかなというふうに思いますが、これは来年度以降も大体これぐらいが目安というふうな形で今考えられているか、計画されているかどうかをちょっとお聞きしていいでしょうか。

桶谷公営競技事務所長 今後、コロナの影響によりまして、どういった状況になるかという非常に不透明な部分があります。仮に新型コロナウイルスの影響が全くないとしますと、このぐらいの数値は少なくとも、実績として残していけるとには思っております。

高松秀樹委員 繰上充用が12億3,000万円になっていますよね。過去5年間の金額はわかりますか。どういうふうに推移してきたか。

長村公営競技事務所主任主事 平成26年度から30年度までの金額を申し上げます。平成26年度から7億4,000万円。平成27年度が9億3,500万円。平成28年度が10億9,000万円。平成29年度が12億7,000万円。平成30年度が12億6,000万円となっております。

岡山明委員 充用額は平成28年からずっと10億9,000万円、あと12億7,000万円、12億6,000万円、今回が12億3,000万円という状況で、売上げでいくと、平成29年が92億円、平成30年が88億円で、平成31年が116億円、今回152億円という数字が出ているんですね。これは補正前の金額です。今回もう補正が終わって

いますが、補正前の売上げのような形になるんでしょうけど、歳入歳出の部分で、今回の資料の一番頭の部分、1ページですね。補正前の額ということで、1ページ、2ページですか。2ページにも出ていますよね。補正前の額ということで、これが152億円という数字が出ています。そういった状況の中で、売上げがずっと伸びてきている状況の中で、充用額が余り変わってないと。平成30年度に関して12億7,000万円、これはマックスという状況の中で、もう少し額的に下がっていいような形になっていると思うんですけど、売上げに対して、繰上充用額は大差ないと。もう少し下がっていてもいいんじゃないかという状況なんですけど、これ去年もたしか同じような話をしていると思うんですが、なぜ売上げに対して充用額が減っていないんだと。その辺の部分をちょっとお話を聞きたいんですけどね。

桶谷公営競技事務所長 現在スタンド改修を計画しておりまして、スタンド改修の原資の大きな一つとして、施設改善基金を考えているところです。そうしたことから、基金へ一定額の積立てをしながら、なおかつ黒字を出していくことを念頭に置きまして、運用しているところです。先ほどお示しした資料3の表の中では左肩の数字でいきますと2番の令和元年度、単年度収支としまして3,074万1,000円を見込んでいます。一方、下から2行目の数値、基金の増減額B+C、3,785万3,000円という数字があると思いますが、この数字と先ほどの単年度収支の3,074万1,000円を足しますと、6,859万4,000円になります。これがいわゆる実質単年度収支になりますので、数字的には良い数字が出ているとは思っております。

中村博行委員長 意味が分かりますか。要するにおっしゃっているのが売上高が上がっているのに繰上充用額が変わってないという意味でしょ。結局、貯金しよるわけですよ。

岡山明委員 それは分かっています。そういう状況で去年の分が今言われた、

基金合計増減額が、2,900万円ですか。今回が3,700万円という状況ですよね。去年、昨年と比べて金額的に700万円ぐらいの差しかないんですよ。こういうことでいくと。一番下の部分ですね。基金増減合計がBとC合わせて、これは去年が3,000万円、今年が3,800万円。そういう売上げに対してもう少しそういう部分が出てきても当然積立金もありますが、昨年も同じような発言もされています。そういう状況の中で売上げが増えている割合に対して、ここの増減が少ないという状況の中で充用額も同じように返済といったらおかしいんじゃないかと、そういう充用額が減ってないという部分が去年の部分でも、金額的にもどうかなと私は思っているんですけど、その辺でもう少し落とせるような形にならないかと思っているんですけど。

中村博行委員長 明確な回答をお願いします。

桶谷公営競技事務所長 細かい数字でいきますと、例えば二つの基金の増減額を比べましても、例えば平成30年度は2,945万9,000円でした。一方、令和元年度は3,785万3,000円でございます。その他、単年度収支を比べますと平成30度が875万4,000円で令和元年度が3,074万1,000円でございます。実質単年度収支につきましても、平成30年度が3,821万3,000円で、令和元度が6,859万4,000円でございます。純資産がどれだけ改善したかということで、昨年度から実質収支改善額という表現を用いて御説明をさせていただいております。この実質収支改善額はバランスシートを作ったときの純資産額がどれだけ増えたかを意味するものになります。平成30年度が1億1,492万6,000円で、令和元年度が1億4,530万7,000円ですので、全ての数値で大きく改善をしていると認識しております。

高松秀樹委員 今さっき繰上充用額を平成26年度から聞いたんですけど、何かだんだん増えているような傾向となってきているじゃないですか。最

最終的には累積赤字を解消する年度ってというのはいつごろになるのかなと思って。単純計算すると40年ぐらい掛かりそうな気がせんことはないんですけど、事務所のほうで予定はいつになっていますか。

桶谷公営競技事務所長 今後スタンド改修を予定いたしております。そういったスタンド改修に係る経費、あるいは今後ミッドナイトレースを増やしていく意向がございますので、そういったレースの日数増による売上増、それから先ほどの重勝式の売上げの動向も踏まえまして、令和17年度には赤字を解消する見込みを持っております。

高松秀樹委員 見込みというのはしっかり計画があるということですか。僕は最近、委員になったんで知りませんが、そういうのが提示されておるんですか。

桶谷公営競技事務所長 以前、一昨年度の委員会の中でお示しをさせていただいております。

中村博行委員長 今は令和17年というふうなお話があったけど、返済計画を平成31年度3月に頂いていますが、その時から少しまた伸びたような気がするんだよね。改めてそのスタンド改修をきちんと入れた中で返済計画を作れますか。そのときは令和14年ぐらいになるというふうなお話あったんですけどね。

桶谷公営競技事務所長 一昨年、委員会の中でお示しさせていただいたシミュレーションが2パターンあったかと思っています。二つをお示したそのうちの一つ、二つ目のパターンにつきましては、ミットがかなり順調に伸びたものを場合を想定して作った資料というふうに認識をいたしております。現在、直近の状況で申し上げますと、スタンド改修の総額が幾ら掛かるかということによりまして、これらのシミュレーションが大きく変わってくると見ております。

中村博行委員長 その辺がはっきりしたら、また返済計画なりを提示していただければ助かりますけどね。資料4も同じような関係ですので、資料3も4も含めた中で質問してください。

宮本政志委員 今回このコロナの関係で国とかJKAか何かから補助金か、何か応援する部分というのは一切ないんですか。

長村公営競技事務所主任主事 今、正におっしゃられたとおり、JKAのほうで補助金を出しておるんですけども、コロナ対策の関係で緊急事業ということで、総額1億円を競輪、オートレースから補助で出しますというのが出ております。——大変失礼しました。うちにその補助金が出るということの意味ではございません。

高松秀樹委員 4の開催に掛かる収支の開催経費、その他開催経費の8億8,000万円がありますよね。この大きいとこだけでいいので教えてもらえますか。

長村公営競技事務所主任主事 主なものがインターネット投票業務委託料でして、こちらが約3億2,600万円、それと競走会への委託料、選手補償等含めまして約2億円が主な大きな数字になっております。

高松秀樹委員 その下の収益保証があるじゃないですか。これの計算式ってどうやったですかね。

中村博行委員長 収益保証と包括的民間委託料、それぞれ基本的なものがあったよね。6,000万円と6億2,000万円と。それがこういうふうに数字が変わってくる。そういう計算式ということになると思うんですけど。

桶谷公営競技事務所長 包括的民間委託の委託料につきましては、契約上は6

億2,000万円の収益保証は6,000万円ということで、当初予算をそこからスタートするわけでございます。予算どおり売上げがいきますと、それぞれ、委託料は6億2,000万円、収益保証は6,000万円という形になりますが、予算どおりに行かなかった場合には、これらの金額が変わってまいります。どのように変わるかと申し上げますと、ざっくり申し上げますと、歳入から歳出を引いた残りを委託料と収益保証で分配をするという計算式になります。

高松秀樹委員 つまりは減っているってことは予算どおりに行かなかったというふうに見ていいんですよね。そこで本場開催のいわゆる利益率、またはその本場以外の収益の利益率っていうのはどのぐらいになっているんですか。

桶谷公営競技事務所長 細かい数値的な分析はこれから行いまして、また改めまして決算委員会の際に御説明をさせていただきたい。本場開催におきましては、ほとんど利益が出ていないという状況でございます。

高松秀樹委員 ということは本場以外でほぼ賄っているということですけど、利益が出ていないっていうことは経費を差し引いたらペイになるっていうことなんですけど、そういう感じになって、それ以外のところでいわゆる今の収益を出ているという話なんですよね。

中村博行委員長 例えば本場開催の損益の分岐点というのは出ていますか。

桶谷公営競技事務所長 本当にざっくり申し上げますと、80億円の売上げというふうに思っております。

中村博行委員長 そういう意味では前、年間77億円とかいうのは聞いた覚えがありますよね。

長村公営競技事務所主任主事 補足で御説明させていただきますと今、正に平成28年度に売上げが77億円を本場だけで記録したときは日写への委託料は6億円台でした。当時収益保証は5,000万円でした。その契約当初の収益保証額は入っているというところもございまして、やはりそれぐらいの売上げを達成したときに初めてお互いで分配するときこそ本場開催での利益というのが出てくると考えております。そこまで売上げが行かないときは日写さんとこちらでそれぞれ収益保証を減らしますとか委託料を減額させてくださいという話になってきているのが実情です。

高松秀樹委員 令和元年度は80億円に行っていますか。総売上が115億円ですよ。

長村公営競技事務所主任主事 本場のいわゆる昼間の開催でいきますと、70億8,348万6,000円こちら側の本場における発売金を指してまして、これに重勝式とミッドナイトの売上げ、その三つの売上げ全てを足したら115億円になりますというところです。

高松秀樹委員 本場開催すると経費が掛かるやないですか。人も要る。今さっきその話だったんですよ。それで利益率がどうなのかって話でしたんですよ。今、委員長が言われたのは本場やってその経費が要るときに本場のみでどれだけ売上げがあったらいいのかっていう話だったんですけど、今の話は115億円の全部話でしょ。115億円とか今回の山陽オートの売上げの話でしょ。

中村博行委員長 本場のみだったら、77億円から80億円ぐらい行かんといけんという話でしょ。ということですよ。資料4の一番上やろ。

桶谷公営競技事務所長 お手元の資料の4の1に開催に係る収支ということで挙げております。先ほど私が80億円という数字を申し上げたのは、こ

こベースでの数字で80億円という、そういった表現をさせていただいております。一方、高松委員がおっしゃられているのは本場だけの売上げでどのくらい収益が出るかという、例えば本場開催したときの本場で売れる売上げということですか。例えば場間場外でよその場に売っていただくあるいは、民間ポータルで売っていただくそういったのも全部含めてということですか。

中村博行委員長 本場開催はそういう意味じゃろう。

桶谷公営競技事務所長 そういたしますと、先ほど資料4の中の説明で申し上げましたとおりで、430万6,000円の収支になります。

岡山明委員 駐車場の話で資料の1の部分なんですけど、本場の入場者数というのが確かに下がっていますよね。先ほどの話じゃないんですけど5年、6年前の入場者数というのは統計を取られていますか。駐車場の問題で市として動きがないという状況なんですけど、年間入場者数のトータルが今5万8,000人というこの数字だと。この数字自体の把握しているのは持たれていますか。

桶谷公営競技事務所長 入場者数を管理したものを持っておりますが、今日は手元に持ち合わせておりません。

岡山明委員 私も見ている限りは毎年少しずつ下がっているっていう状況で、各場も見てもやっぱり本場の入場者数が下がってきている状況でスタンドの改修も入ってくる状況の中で駐車場の920万円と。そういうお金もありますその辺の見直しもやっぱ今後進める形を本場の入場者数をキープしていればいいんでしょうけど、年々減っている状況でその他など、重勝式、ミッドナイトという入場に関わらない部分での収益が出てきているというのが現状ですから、駐車場に対する考え方もしっかりと方向性を考えていただきたいと思いますと思っていますけど、もうそろそろ動いて

きていい時期じゃないかと思っております。それはどう考えられますか。

桶谷公営競技事務所長 駐車場につきましては、ここ近年の本場に来られる、お客様の状況、の中にはグレードレースごとにどのぐらいのお客様が来られるか、あるいはイベントを一緒にやったときにどのぐらいのお客様に来ていただけるか、この駐車場から埋まっていくのかは、日ごろから注視をしているところでございます。本場のレース場から一番遠いところにあります駐車場で第5駐車場というのがございます。この第5駐車場につきましては710台ほどを収容するキャパがあるわけですが、これにつきましては、必要がないのかなと思っております。以前も委員会の中で申し上げましたとおり、地権者の方と接触をして、交渉したいと思っております。ただし、これは契約の交渉事でございますので、相手方の意向といいますかお考えといいますか、そういったことも十分踏まえまして、協議を進めていきたいと考えております。

中村博行委員長 まだ行きたいというレベルね。いついつぐらいから交渉を始めるといふ具体的なものはないということね。そこが進んでないという見方をされるわけですね。

桶谷公営競技事務所長 既に地権者の方と接触をいたしております。

高松秀樹委員 接触してどうやったんですか。

桶谷公営競技事務所長 一度に深いところまでの話はできませんので、1回目、2回目というところで、徐々に話を進めていきたいと思っております。

岡山明委員 駐車場の件で第5駐車場が710台、その隣の第2駐車場が390台入るんですね。合わせてそこだけで1,000台近い駐車場があるという状況ですから、その辺はやはりもう今の本場の開催の人数が減っている状況であれば、この第2と第5の1,000台という駐車場は買

い取るか、返還するかその辺は早く考えていただきたいと。あとまだ600台入る第1駐車場が現にあるという状況ですから、その辺で、今の1日の平均に入場者でいくと1,200人しか入場者数としてはおらんという状況ですから、駐車場、まずは第5と第2駐車場の見直しを早期に進めていただきたいと思っていますけど。それでちょっとお願いしようと思ったんですが。

桶谷公営競技事務所長 第5駐車場の710台につきましては、大きなレースをして、なおかつイベントを行ったときも御利用されることはないだろうと見ております。一方、ただ今岡山委員さんのほうから御意見を頂きました第5駐車場の手前側に390台ほど止められる第2駐車場というのがございます。この駐車場につきましては、大きなレースあるいはイベント等をしたときには止めていらっしゃるお客様もいらっしゃいますので、あくまでも現在のところは、第5駐車場を中心に交渉をしていきたいと思っています。

中村博行委員長 まずは第5からね。これは議会報告会なんかでも市民の方からあれは無駄なのにという声が出ていますので、その対応にいつも答弁いただいたのと同じように答えています。なるべく早く、その辺は対処していただきたいという。ほかはよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは質疑を打ち切ります。討論ございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論はありませんので、採決に移ります。議案第63号令和2年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第1回）について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

中村博行委員長 全員賛成です。したがって、議案第63号は可決すべきものと決しました。以上で委員会を終わります。お疲れ様でした。

午前 11 時 55 分 散会

令和 2 年 5 月 21 日

産業建設常任委員長 中 村 博 行